

令和4年度第6回社会教育委員の会議

令和5年2月20日(月)

午前9時30分開会

開催日時	令和5年2月20日	開会 9時30分 閉会 11時00分	
場 所	小金井市役所第二庁舎8階801会議室		
出席委員	議 長 柴田 彩千子 副 議 長 福井 高雄 委 員 黒木 智道 委 員 諏訪 啓二郎 委 員 金澤 大恵	委 員 北澤 隆司 委 員 森本 榮子 委 員 鈴木 哲也	
説明のため出席した者の職氏名	生涯学習課長 関 次郎 生涯学習部スポーツ振興担当課長 中島 憲彦 図書館長 内田 雄介	公民館長 鈴木 遵矢	
事務局	生涯学習係長 倉澤 淳子		
傍聴者人数	2名		

日程	議 題	
第 1	協 議 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議録の承認について (2) 令和5年度管外視察研修について (3) 放課後子どもプラン運営委員会への出向委員について (4) 令和5年度会議等の日程について
第 2	報 告 事 項	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地域学校協働活動について (2) 令和4年度小金井市二十歳を祝う会について (3) 第53回関東甲信越静社会教育研究大会について (4) 東京都市町村社会教育委員連絡会第5ブロック研修会について (5) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会の開催について (6) その他

開会 午前9時30分

柴田議長 では、定刻となりましたので始めさせていただきます。本日は石原委員と富田委員より、事前に欠席の連絡をいただいております。令和4年度第6回の社会教育委員の会議をこれから始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

 それでは、早速議題に入りたいと思いますが、その前に、配付資料の御確認をお願いいたします。

倉澤生涯学習係長 では、資料の確認をさせていただきます。まず、次第と資料1が令和4年度第5回社会教育委員の会議会議録、資料2が令和5年度管外視察研修について、資料3が令和5年度会議等の日程について、資料4が地域学校協働活動について、資料5が令和4年度小金井市二十歳を祝う会について、資料6が第53回関東甲信越静社会教育研究大会報告書、資料7が東京都市町村社会教育委員連絡会第5ブロック研修会報告書、資料8が東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会報告書、資料9が令和5定期総会議案書（案）です。また、本日黒木委員より緑小学校の令和4年度ゲストティーチャーによる授業一覧を配布していただきました。

 その他、委員の方にのみお配りしている資料は、社教情報N088、社教連会報No92、2022青少年のための科学の祭典報告書、月刊こうみんかん11月号～2月号、図書館だより第70・71号、体協だより66号、青少健だより花みずき70号、その他、鈴木委員から情報提供4種類の資料をお配りいただいております。配布資料は以上です。

柴田議長 ありがとうございます。皆様、お手元にそろっていらっしゃるでしょうか。

 では、議題に入りたいと思います。

 1番ですが、会議録の承認について、お願いします。

倉澤生涯学習係長 こちらは、10月17日に開催しました第5回会議の会議録です。事前に委員の皆様には内容を確認していただいております。よろしければ、本日御承認いただければと思います。

 以上です。

柴田議長

ありがとうございます。

こちらは事前にメールで皆様にお配りしているものかと存じますが、さらに修正などがありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

では、この資料1のとおり議事録は承認されたということで、よろしく願いいたします。

では、続きまして2番です。令和5年度の管外視察研修についてです。こちらの資料の御説明をお願いいたします。

倉澤生涯学習係長 では、資料2を御覧ください。例年7月の初旬頃、他市への管外視察研修を行っております。まだ日がございますので、本日決定していただくというのではなく、視察したい内容ですとか、視察先について御協議いただければと思っております。

今年度、令和4年の当初に候補に挙がっていた自治体とその他、地域と学校のつながりが参考になる自治体を議長より御提案いただきまして掲載いたしました。今期の社会教育委員の会議の主要な議題の一つが地域学校協働活動の推進ということですので、そのテーマに沿った候補地を挙げております。

本日は御意見を皆様にいただいて、来年度初めの4月の会議でおおむね決定できるかと考えております。よろしく願いいたします。

柴田議長

御説明ありがとうございました。

では、資料2を御覧ください。令和5年度の視察先について、皆様方から、今日、御意見をいただきたいと思えます。今まで、令和4年度視察候補に挙がっていた自治体につきましては、事務局にまとめていただいたとおり、資料2の上段部分にございます。

今年度は三鷹市に視察に参りました。ほかに候補に挙がっていたのが小平市、こちらは担当部署が地域活動支援課というところで、例えば統括コーディネーターさんからお話をいただいたりとか、それから、小平の社会教育施設と学校との連携を視察するというところで、例えばなかまちテラスという、皆さん御存じかもしれませんが、妹島和世さんという建築家の方のデザインのすごくスタイリッシュな建物なんですけれども、こちらで地域の小学校から高校との連携というものが活発に行われているということで、一つ参考になる

のではないかとということで小平市が挙がっております。

それから、(3)として、清瀬市が挙がっております。清瀬市は担当部署が生涯学習スポーツ課というところで、こちらの学校のスペースを地域の方々の活動場所として活用している事例があります。

そのほかに幾つか、今まで皆様方からこういうところに行きたいという御意見が挙がったかと思いますが、今日は決定ということではないのですが、もし視察に行きたいところがあれば挙げていただければと思います。ただ、こういう御時世ですので、そんなに遠くには行くことができないので、近隣の自治体に限定されるかと思えます。

御意見がある方はよろしくお願ひいたします。鈴木委員。

鈴木委員

鈴木です。御提案したいのはお隣の西東京市の明保中学校というところへ行けたらいいなと思います。もう一校は武蔵野市の関前南小学校に行ければいいなと思います。

理由は、明保中学校は校長先生が宮本先生という方で、とても子供たちを喜ばせる、地域とつながっていくということで、熱心に活動をされている方で、この方の取組としては、子供たちがコロナで外へ出られないということであれば、学校内のどこへも出かけない遠足をしようということで、技術科の先生と協力をして、校内でプロジェクトマッピングを子供たちに映して見せたりですとか、あとは近隣の方の協力を得てVR体験、それと避難所体験ですとか、防災を絡めた体験を子供たちと楽しみながら行っています。

新しい取組ということで、今後、コミュニティ・スクールを小金井市でも進めていくに当たって、やはり地域の方が興味を持っていただくとか、面白いと感じていただいて、まず学校に興味を持っていただくところが重要なポイントだと思っております。

先日、12月10日にありました小金井南小学校の南小フェス、70周年のイベントとして行われたものですが、600人以上の方がお見えになり、地域のお店のキッチンカーが入ったりですとか、学校の子供たち、保護者だけに限らず、小学校に入る前の段階の御家族も、どんな学校なんだろうという形で見学に見えるなど、すごくいいイベントでした。その中で、大熊教育長がダッチオーブンを使って石焼き芋を焼いてくださったんですけど、それはたき火

をたいて、下にダメージがないようにちゃんとたき火台は置いていましたけど、その様子を1年生の保護者の方と御覧になって、こんなこといつもやっているんですかという形で、PTAとか学校の行事に関してはもう少し固いイメージを持っていたけれど、自分もアウトドアが好きなので、こういうことをやるのであれば、ぜひ学校に関わっていききたいという御意見も伺いました。

もう一点、関前南小学校については、山梨の研修会に行かせていただいたときに、同じホテルに泊まれたのが武蔵野市の社会教育委員の方で、この方が関前のことに物すごく深く関わっていらっしゃいます。地域の方を招いてどんど焼きという、最近どこでも行われないようなイベントを行われたりとか、あとは、社会教育委員と保護者の方と地域の方が一体となって、「みんなの関前」というライングループを運営されていて、地域の情報ですとか、学校で行われる情報ですとか、いろいろなものを地域、保護者、学校で共有するなど、いろいろな取組をされています。このようなことは、今後、学校、地域に開いていくというコミュニティ・スクールの趣旨にも合うと思いますので、委員の皆様にもぜひ御紹介したいと思いますので、この2校を提案します。

以上です。

柴田議長

ありがとうございます。

ほかに御意見ありましたらお願いします。

福井副議長

福井です。ここに記載されている小平市、清瀬市、今推薦された2市があったと思うんですけれども、私は一番目に、ここにも記載されている清瀬市を推薦したいなと思います。

清瀬市の市立小学校は9校、中学校は5校ありまして、小金井市と全く同数の市立小中学校の校数があるというのが一つ、あと、清瀬市はPTAという制度を廃止しました。それで、現在は保護者の会というネーミングで活動されているのと、あと、学校支援本部及び統括コーディネーターの学校と地域の連携ということを非常にしっかり運営されているというので、例えば清瀬第三小学校はサマースクールが清瀬の小学校の中でのモデル校ということになっていますし、保護者の会ということで推薦する中学校としては、第二中学校が推薦されるのがポイントだと思いますし、あと、皆さんに

一度お配りした「とうきょうの地域教育」の143号に掲載されているんですけど、清瀬市が東京都のモデル校としてコミュニティハウスというのを設立しまして、東京都から令和3年度、補助金をもらったことで運営されています。内容としましては、地域、学校、協働の理念を実現するためにコミュニティハウスを設けたということで、地域の子供から高齢者まで幅広く地域の参加を生み出すようなコミュニティーづくりをやるということで、東京都から推薦されているモデル校も清瀬市内にあるということで、参考になるので、ぜひ清瀬市の視察を推薦しておきたいと思います。

以上です。

柴田議長

ありがとうございました。

清瀬市は都が運営しているコミュニティハウスというものが、横浜市の小学校をモデルとして作られたところですけども、そういった地域の方のミニ公民館みたいな施設が、学校の空き教室のスペースにあるところが特色だと思います。

ほかにアイデアや御意見ありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

今日は視察先を決定するという事ではないですので、今回、ここに幾つか視察の候補先が挙がっております。視察を行うのは7月、8月ぐらいですか。

倉澤生涯学習係長 例年7月に行っております。

柴田議長

その頃、コロナの感染状況がどうなっているか分かりませんが、今年度は1自治体で2か所ということだったのですが、場合によっては2つの自治体に行ける状況になっているかもしれませんが、まだその辺は流動的ですので、この先どうなるか分からないので、また状況を鑑みて行き先の数は考えていきたいと思います。

それでは、幾つか候補が挙がっていますので、次回の会議までに皆様、どこに行きたいかということについて、それぞれお調べいただいて、御意見をまた改めて伺えればと思いますので、よろしくお願ひいたします。

北澤委員

北澤です。次までに調べるために、今御紹介いただいた候補の市

と学校を、まとめて教えていただけますか。

柴田議長 次回の会議でですか。

北澤委員 いや、この最後までのところ、こことこことこが今候補なので、調べられたら調べたいなと思っているので。ぱっと私も書き切れなかったの。

柴田議長 今挙がっているのは4つの自治体です。小平市、清瀬市、西東京市、武蔵野市です。

小平市の場合は社会教育施設のなかまちテラスを中心、そこを核として地域連携の様々な活動、小学校から高校までやっていますので、どこか御紹介いただいて、学校を回ってみるということと、あとなかまちテラスに伺うことになるかと思います。

清瀬市の場合は、もし清瀬市に行くならばコミュニティハウスは視察したほうがいいのではないかと思います。まだどの学校かというのは交渉次第ということになります。

それから、先ほど鈴木委員から挙げていただいたのが、西東京市の明保小学校。

鈴木委員 中学校。明るく保つと書きます。すごく面白い学校です。

柴田議長 明保中学校。それから、武蔵野市の関前南小学校を視察校として挙げていただきました。

ほかにも皆様、御意見があればお願いいたします。

事務局から視察先について何かございますでしょうか。小学校とか中学校への交渉というのも先方の教育委員会を通せば可能だということですね。

ほかに皆様から何か御質問や御意見あればお願いいたします。よろしいでしょうか。

では、次回辺りに決定できればと思います。視察の時期は例年だと7月ということになっております。

では、次の議題に移りたいと思います。放課後子どもプラン運営委員会への出向委員について。こちら事務局から御説明をお願い

します。

倉澤生涯学習係長 こちらにつきまして、特に資料はございません。放課後子どもプラン運営委員会より委員の推薦依頼が来ておまして、委員の任期は1年ごとのため、来年度の委員を社会教育委員の中から1名推薦させていただきたいと思っております。

現在は石原委員に出席いただいております、31期、今期の社会教育委員の任期が9月8日までとなっておりますので、今のメンバーの中から9月まで、お一人御推薦いただいて、9月の改選後はまた新たな方を決めさせていただきたいと考えております。

本日、石原委員が急遽御欠席ということですので、御内諾はいただいているのですが、また4月に議題として挙げさせていただきたいと思っております。

以上です。

柴田議長

ありがとうございました。

では、こちらの議題も次回に引き続き議題として挙げさせていただきます。

それでは、次に4番に参ります。令和5年度会議等の日程について、事務局から御説明をお願いします。

倉澤生涯学習係長 資料3を御覧ください。先ほど申し上げましたとおりでして、第31期の社会教育委員の任期が令和5年9月8日までとなっております。現在のメンバーでの会議等の予定は表の上半分となっております。今年度とおおむね同様の日程で会議を組ませていただいております。本会議は月曜日の午前中に行わせていただいております。各委員、また御了承いただけるか伺いたいと思っております。

また、欄外に記載しておりますとおり、来年度は東京都市町村社会教育委員連絡協議会、都市社連協の副会長市に小金井が当たっております。令和5年度、6年度と2年間副会長市を担当し、令和7年度は会長市ということが決まっております。委員の皆様には今後、御協力いただくことがあると思いますが、よろしく願いいたします。

また、日程の一番最初、4月15日土曜日に昭島市にて都市社連協の総会が開催されます。一番最後の資料9のところでも説明いた

しますが、柴田議長に副会長として御挨拶をいただくことになっております。委員の皆様もぜひ御出席していただくようお願いしたいと思います。

以上です。

柴田議長

御説明いただきましてありがとうございました。

この件に関しまして、御意見、御質問ございましたら、お願いいたします。いかがでしょうか。

特に御質問、御意見ないようでございますので、令和5年度の会議の日程については原案どおり承認されたということによろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

柴田議長

では、承認されました。ありがとうございます。

では、次に報告事項に移りたいと思います。1番ですが、地域学校協働活動についてでございます。こちらも資料の御説明を事務局のほうでお願いいたします。

倉澤生涯学習係長 御説明いたします。資料4を御覧ください。地域学校協働活動の進捗状況について御報告いたします。

まず、研修等の開催についてです。12月1日に地域コーディネーターの連絡会を行いました。今回は事前にアンケートを取りまして、知りたいという声が多かった、学校から活動について依頼を受けて、そして地域と調整、ボランティア集めをして活動実施という細かなサイクルですとか、あと、地域未来塾の立ち上げから実施までの流れという具体的な内容について、どのようにして進めたかということを中心に、先進校に解説していただきました。

また、メーリングリスト等も作成いたしまして、統括コーディネーターと、あと地域コーディネーター間同士での相談や情報交換も含めまして、ネットワークができつつあるところです。

また、12月10日に東京都主催のフォーラムがございまして、地域コーディネーターが各自、自分の関心のある分科会に参加して、他市の事例等を学びました。特に中学校の協働活動につきましては、まだ小金井市では事例がないため、新規校は大変参考になったと聞

いております。こちら、URLを明記させていただいたのですが、2月末まで都のホームページで公開しておりますので、御興味のある方はぜひ御覧になっていただければと思います。

続きまして、主な活動実績ですが、東小学校では10月より地域未来塾が始まりまして、先週から南小学校でも地域未来塾が立ち上がりました。あとは、南中学校、第四小学校では地域の自主防災会と合同で防災訓練を行うなどの活動も始まりました。来年度はさらに小学校2校、中学校3校が活動開始して、全校が開始することになります。現在、指導主事の先生と共に、新規校各校に訪問しまして、校長先生、副校長先生に活動の説明と、あと、地域コーディネーターの御推薦の依頼をして回っているところでございます。新年度の早い時期に、新任のコーディネーターさんに対して研修等を行い、活動がスムーズに進められるよう準備をしていきたいと思っております。

報告については以上ですが、前回の会議で鈴木委員から御質問のありました学校ボランティアの件です。1月末時点で、登録者の数が176人です。こちらは、御本人の希望に沿って、市内の小中学校全校、あるいは小学校のみ、中学校のみ、また特定の学校のみで活動したいという御本人の希望に沿って、学校長へ登録内容を提供しているということでございます。各学校は、授業補助、体験活動、学校行事のボランティア、あとは地域未来塾の学習支援員等、様々な地域学校協働活動の場で、ボランティアの方に御協力いただいているという状況です。

地域コーディネーターが、地域人材を探す際にも、学校長に相談の上、今後も活用していく予定でございます。

また、市民講師登録制度についてですが、増えておりませんで、現在の登録者数は7名でございます。主な登録内容は、子どもも対象としているのものでは、合唱、演劇、体操などの項目で登録がございまして。この制度については、市民に周知するため、市報3月15日号、併せて市のホームページでも掲載を予定しております。こちらと同じく学校や地域コーディネーターが、体験学習等の講師を探す際に参考にできるよう、引き続き活用していきたいと思っております。

以上です。

柴田議長

御説明いただきまして、ありがとうございました。

令和5年度に小金井市の小中学校全校に全校がコミュニティ・スクールになる、コミュニティ・スクール設置ということに向けて着々と準備が進んで、活動を活発化している様子を伺いました。皆様方から、御意見や御質問、ございましたらお願いいたします。

鈴木委員

鈴木です。

すみません。学校ボランティアの数は何人でしたでしょうか。

倉澤生涯学習係長 1月末現在で176名です。

鈴木委員

ありがとうございます。この内訳ですけど、先日、丸山統括にお会いしたときにちょっとお話を伺ったんですけど、学芸大の大学生さんが多いということで、定期的にボランティアで登録されている方が変わっている部分と、それからあとずっと登録されている方がいらっしゃるというお話を伺ったんですが、そこは、何か今分かることがあれば教えていただけますか。

倉澤生涯学習係長 すみません。内訳までは把握しておりません。

鈴木委員

分かりました。次回までで構わないので教えてください。

ちょっとこれは意見ですけど、子供たちと関わるので、今日来て、全部、子供たちが心を開いてくれるということはあまりないと思っていて、何度もこう来て、顔見知りになるということで、子供たちも心を開いていくという部分があると思いますので、定期的に学生さんが入れ替わって、フレッシュな方が入ってきて、支援に入るというのもいいんですけど、長く地域の方で、同じ場所、同じ学校に入ってきてくださるような方が増えてくると、もうちょっと、学校ボランティアというのも実のあるものになるんじゃないかなと思います。

以上です。

柴田議長

ありがとうございます。福井委員お願いします。

福井副議長

福井です。コーディネーターの人数なんですけれど、小学校によ

っては1人というケースも3校ほどありますし、南小だったら4人だと、コーディネーターの方がおられるんですけど、一応小金井市としては、コーディネーターとしては、複数おられたほうがいいと思うんですけど、事務局としては、コーディネーターの適正人数というのは設定されているかお聞きしたいと思います。

倉澤生涯学習係長 特に1校あたり何人が適正ということは想定はしておりません。各校の学校長等の推薦によって、その方を委嘱させていただくという流れになっております。学校によって、役割を分けていらっしゃる学校は複数委嘱させていただいておりますし、お一人で全てやられている学校もあるといった状況です。

福井副議長 学校長の推薦は分かるんですけど、基本的に1人や2人というコーディネーターだったら、ネットワーク的な運営としては欠けるんじゃないかと思えますし、学校によっては4名もおられるし、1名というところもあるんですけど、学校同士のコーディネーターの打合せというのは当然あると思うんですけど、学校単位で、地域と密着したような活動が必要だと思います。基本的な人数が設定されていないということですけど、最低3名から4名ということで、1名、2名というところがないほうがいいんじゃないかと思えますけど、今後、御検討していただきたいと思えます。

以上です。

柴田議長 御意見ありがとうございます。コーディネーターさんの育成というところもあわせて課題になるかと思えます。

ほかに御意見、御質問ありますでしょうか。この議題に関連しまして、緑小学校の黒木先生から資料を御提供いただいております。地域学校共同活動におけますゲストティーチャーによる授業一覧を作成していただきましたので、黒木先生、御説明いただいでよろしいでしょうか。

黒木委員 A4の令和4年度ゲストティーチャーによる授業一覧というのを御覧ください。前回の鈴木委員から、どんなゲストティーチャーを呼んでいるのかという話がありましたので、簡単に取りまとめをしてきました。見ていただければ分かるんですけども、都教委の委

託事業であったりとかそういうものに関しては、コーディネーターはさすがに出てくることはできませんので、これでいうと、例えば3年生、4年生のフォニックス、4年生の小金井市スポーツ推進委員の人に来てもらって、ボッチャの体験教室だったり、5年生の緑町町会の防災訓練みたいのですね、今年は雨で中止だったんですけど、こういったもので、コーディネーターさんをお願いしている、ゲストティーチャーをお願いしてというような状況です。

あわせて、たまたま出てきたので、「みどりのほうかご」2月号裏面に、ちょっと印刷をしたんですけども、発出元は緑小の地域学校協働本部ということで、コーディネーターが、放課後、子供たちの放課後の居場所についてこういうふうに月曜日から金曜日まで学校のある日には、何らかの活動を実施しているという様子が分かるかなと思いましたがつけさせていただきました。

さっき話題が出た地域未来塾というのが、緑小の場合は、「ほうスタ」という名前がついています。毎週木曜日にやっているんですけど、ここで学生さん来てもらって、学習の補助をしてもらう。11月頃には、近隣の都立高校の生徒さんのボランティアも来てもらっているというような活動をしています。

以上です。

柴田議長

御説明いただきましてありがとうございます。

毎日放課後に、子供の、何かしらの活動がされていることが、このカレンダーからうかがえます。福井委員お願いします。

福井副議長

福井です。黒木委員にちょっと確認なんですけど、非常に細かい話で申し訳ないんですけど、この2月のカレンダーの右上が令和4年と書かれているんですけど、令和5年1月30日に、2023年度、令和5年度2月のカレンダーを発行されたと思いますから、できたら、令和4年を5年に直していただいて、開示していただきたいと思います。

以上です。

黒木委員

はい、分かりました。ありがとうございます。令和5年1月30日の誤りでした。失礼しました。

柴田議長 御指摘ありがとうございます。ほかに御意見、御感想でもよろしいですので、御発言いただければと思います。いかがでしょうか。

鈴木委員 質問いいでしょうか。

柴田議長 はい、鈴木委員お願いします。

鈴木委員 先生今おっしゃった都立高校の方が学校に来てくださるといのはすごくいい取組だなと思ってお話を伺いました。これはどのような形で、高校生の方とつながって、どのようなことを子供たちとやっているのかももう少し詳しく教えていただきたいのが1点。もう一つ、このほうかご英語、エースですか、ASEですか、これもうちよっと内容詳しくお聞かせいただければと思います。

黒木委員 分かりました。まず、都立高校の話なんですけれども、これは、都教委から来た事業で、将来、教職、学校の先生になりたい高校生に対して、実際に学校での指導補助みたいなことをして、学校についての理解を深めてほしいという事業で来たものです。学芸大学と連携してやった事業でした。内容は、子供に学習を教えるというようなことで、緑小の場合は、子供たちに大変評判がよかったです。大人気でした。なんですけれど、やっぱり年も近いお兄さんお姉さんということで、すぐになつきましたね。先ほどボランティア、長く入ってこそだという話もちろんあるんですけれども、お兄さんお姉さんというだけで、子供は大好きになっちゃってという活動がありました。

柴田議長 よろしいですか。

鈴木委員 あと、ASEを。

黒木委員 ほうかご英語というのは、これは発音、英会話みたいなやつですかね。これ地域の人をお願いをしているものです。

鈴木委員 いいですか、続けての質問で。もう一つだけ。
このASEについてなんですけど、これは、何かその地域の方が、

教材も持ち込まれる、それともある程度、学校でやっていらっしやることに沿ってという形ですか。

黒木委員 一応、学年が指定してあるので、その学校での、学校での学習に合わせた教材を地域の人が用意してくれるんだと思います。

鈴木委員 これ常設なんですね。

黒木委員 そうですね。

鈴木委員 ありがとうございます。

柴田議長 ほかに御質問、御意見ありますでしょうか。

北澤委員 北澤です。ちょっと教えていただきたいんですけども、これは、小学生が学校終わった後に、自由にこれに参加できるという、何か申込みとか、そういった手続的などころというのはどんな感じでやられているのでしょうか。

黒木委員 年度の初めに申込みをするという形になっています。申込みは一度しておけば、放課後自由に参加したいときに参加できる。

北澤委員 このメニューの中から興味があるものだけ行って。

黒木委員 はい。

北澤委員 ありがとうございます。

柴田議長 金澤委員お願いします。

金澤委員 黒木委員、すみません。「ほうかご」というふうにかかれていたタイトルがたくさんあると思うのですが、今、北澤委員から質問があったとおり、私もこの申込みとかどうなるのかなというふうに思っていて、全校の子供たちが対象ということですね。どの学年でも申込みをしておいて、例えば月曜日のこの「ほうかご」に行きたいとなったら図書室か校庭に行く？「ほうかご」という場所とい

うか、に行く？ということなのでしょうが…どのような内容なのか…少し不明で。何かすいません、本当に初歩的な質問で。

黒木委員 分かりにくいと思いますよね、これ。「ほうかご」というのは、放課後遊びの略で、学校から帰る前に、校庭とかで遊んで帰るという活動をしています。校庭開放というあれに似ています、少し。遊びの道具とかを用意しておいて、遊んでいます。6年生も、バトミントンに真剣にやっている子どもたちがいたりして。ただ、校庭が雨で使えなかったり、校庭の体育の授業があったりするので、図書室とか体育館、校庭とかというふうに場所が指定されている。

金澤委員 じゃ、そこに行けば、その「ほうかご」というそのタイトルの活動に参加が何かできるということですね。

黒木委員 そうです。

金澤委員 しばらくぶりの学校の内容ですいません。ありがとうございます。

柴田議長 生涯学習課長お願いします。

関生涯学習課長 生涯学習課長です。放課後子ども教室という事業については、これ緑小において「みどりのほうかご」と銘打っていただいて、このようなメニューがありますよということです。外遊びだったり、室内遊びだったりということです。緑小さんにおいては事前申込み、どの学校区においても、恐らく年度当初、保護者を通じて、事前申込みということもありますが、当日申込で遊びたい子は運用もできる学校もあると聞いております。

それとあと、ほうかごの英語ということで、黒木先生が御説明いただいたとおりでなんですけど、これも地域学校協働活動の一環でありまして、これは、教育課程外学習活動という言い方をしておりますので、学校が終わった後の放課後の時間帯に、近所の方だったり、緑小さんでしたら、学生、学大の学生さんが、授業の補習、緑小さんでは、英語もやっていたらいいということでございます。

ちょっとすいません、補足でした。

柴田議長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

福井副議長 福井です。ゲストティーチャーの授業と一番上に書かれているんですけども、たまたま私は前原小学校で昨年の10月、11月二度ほど授業のゲストティーチャーで参加しています。例えば、学校長で決められて、私が所属している団体にリクエストがあって、参加したんですけど、例えば学校によって同じ内容のものでも、前原小学校で、そういうゲストティーチャーを呼んだという内容を、緑小学校としても共有されたほうがいいんじゃないかということです。学校長会議でいろいろお話しされると思うんですけど、短時間で効率的に運営されているようなので、他校のゲストティーチャーの仕組みというのをお互いに共有されていないんじゃないかと思いついて、できたら、いろいろそういう仕組みを参考例として共有されて、もう少し地域と学校が活発に運営される場合は、共有したものを聞きながら、参考になるんだったら、リクエストするという方向性にもっていくと、学校と地域が、しっかり活動としては、活発化していくということで、ぜひ共有していただきたいと思います。以上です。

黒木委員 ありがとうございます。確かに、やっぱりそれぞれの学校独自のゲストティーチャーがずっと続いているということもあって、他校の様子は、福井委員がおっしゃられたとおり、あまり共有できてないんですよ。何かそういう仕組みをつくっていききたいかと思いついて。ありがとうございました。

柴田議長 御意見ありがとうございました。この点はコーディネーター連絡会では共有されるものなんでしょうか。事務局にお伺いしたいんですけど。

倉澤生涯学習係長 例えばこのゲストティーチャー一覧でいただいたものの中で、地域コーディネーターの方が携わった授業等については地域コーディネーター連絡会で活動事例として情報共有しています。

柴田議長 ありがとうございます。ほかに御意見や御質問ありますでしょうか。

請ということになると思います。ただ、それほどがちがちのものではなくて、例えばこういうゲストティーチャーがいるんだけど、こういう学習をさせることができる地域の方がいるんだけどという提案があれば、もちろん検討したいと思います。

鈴木委員 ありがとうございます。

柴田議長 ほかに御意見、御質問、ありますでしょうか。よろしいですか。
では、この地域学校協働活動についての議題は、毎回継続的にこれからも入れていきたいと思いますので、よろしく申し上げます。
では、報告事項2番に移ります。令和4年度小金井市二十歳を祝う会についてです。こちらも資料の御説明を事務局のほうからお願いしたいと思います。

倉澤生涯学習係長 御説明いたします。資料5を御覧ください。令和5年1月9日の成人の日に、二十歳を祝う会を開催いたしました。来賓として御出席をいただきました委員の皆様、また手話通訳に御協力いただきました北澤委員、ありがとうございました。

今年度より成年年齢は18歳に引き下げられましたが、本市では引き続き20歳の方を対象に式典を開催いたしました。令和3年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、座席を1席ずつ開けて、3部制で開催いたしました。参加状況は例年どおり、おおむね例年どおりでございました。参加者のアンケート、意見等については、裏面のとおりです。今年度も二十歳の実行委員の方が企画運営に携わっておりまして、アンケート結果を見ましても、参加者おおむね満足していたというふうに思っております。

特に20歳を代表しての二十歳のことばについて、こちらは心に響いたという意見が多く聞かれまして、ご臨席いただいた中学校長より学校だよりにぜひ掲載したいといった依頼もありました。

来年度の開催につきましては、コロナの状況も鑑みながら、通常の一部制に戻すかどうかも含めて検討していきたいと思っております。以上です。

柴田議長 御説明いただきまして、ありがとうございました。ではぜひ、御出席いただきました委員の皆様から一言ずつ感想をいただければと思い

ます。では御出席いただきました委員は金澤委員。

じゃ、金澤委員、一言いただければと思います。

金澤委員 参加させていただきまして、ありがとうございました。私は、予定が変更となり、富田委員に交代していただき第3部に出席をさせていただきました。先ほど出た二十歳のことばについては、これ、全然関係ないのですが、一部、二部、三部、同じ方、発表したのですね。

倉澤生涯学習係長 一部と三部は同じ方が読みました。

金澤委員 そうなのですね。読まれたのは男性の方で、「僕たちはこのような大変な時代に生きているけれども」という始まりからで、確かに印象深い、力強いメッセージが、自分の20歳のときと比べたら…と、とても本当に心揺さぶられる言葉だったと思いました。私自身としましては、このような来賓という形で出席したのが初めてでしたので、大変緊張しましたが、そこで一緒させていただきました来賓の方々とも交流ができて、社会教育委員以外に様々な活動があるということも勉強になりました。学生さんとも交流して大変貴重な機会でした。誠にありがとうございました。

柴田議長 ありがとうございます。ほかに出席いただいた委員は、北澤委員は手話で出席。では一言いただいて。

北澤委員 非常にいい会で、去年にも増して、20歳の方の代表の言葉もよかったですし、市長の言葉、ちょっと今回市長が代わられていたということで、すごく、去年、今までとはちょっと趣向が変わって、何かスティーブ・ジョブズの言葉を引用されて、すごく印象的な、いい言葉だったなと思いました。

ただ、こう一席あけてというところが、何となく、あとはマスクを着用してとかというところがやはり、来年はもうちょっとそれがもっと違う形で実現できたらいいかなというふうに感じました。

以上です。

柴田議長 ありがとうございます。では次の報告に移りたいと思います。3

番です。第53回関東甲信越静社会教育研究大会についてです。こちらの資料の御説明をお願いします。こちらは福井委員が資料を作成していただきましたので、お願いいたします。

福井副議長

資料6を見ていただきたいと思います。甲信越静研究大会は山梨県甲府市で開催されました。期日は11月10日及び11日の2日間で開催され、初日の1日目に基調講演がございまして、皆さん御存じのように、女子ソフトボールの日本代表監督であった宇津木妙子さんから講演をいただいたんですけれども、若い、選手時代は苦労したというようなエピソードをいただいた後、監督になってから選手に対して、継続は力なりということを指導されたということです。さらに、後半には、競技の楽しさというのを指導しているということで、時間的には80分だったんですけれど、スライド上演が20分、あと講演が60分ほどあったんですけれど、中身濃いお話をいただいたということで、参考になりました。

次ページのシンポジウムのページなんですけれど、テーマとしては「新たな生活環境の中で、社会教育のあり方を考える」ということで、3人のシンポジストの方が発表されました。参考例として認知症支援ということで地域共生社会を実現しようというのが1人目。2人目の方は、地域のところのお弁当箱をリユースするということで、宅配しながら、人と地域をつなぐということで、お弁当の食器をリサイクルしながら、地域の人とコーディネートしていくというような仕組みを設けたというお話をいただきました。

3番目の方は、次世代の人材の中高生が、地域支援、地域活動するための支援をしている団体の方が説明されました。地域と学校とつなぐ場合は、中高生とか主体になった運営もあるんじゃないかということでサポートされている担当の方からお話をいただいたということで、まとめとしましては、次世代の人と地域が連携して活動するということが大きな課題であり、仕組みでしっかりやっけていかなきゃいけないということで、次世代とのつながりということを強調されたということで、シンポジウムは終わりました。

2日目の分科会が各種あったんですけれど、私は第1分科会の「ひとづくり」というところに参加しました。テーマは、「学校・家庭・地域の連携協働のあり方」ということで、2名の方が発表されたんですけれど、ぜひ小金井市の方も参考になる項目が、中間に記載し

ています。放課後子ども教室の活動として、学校と公民館とが連携協働しているというところがあるということで、参考として発表者の井上さんの館林市ですけれど、館林の小学校は11小学校及び11公民館があるということで、学校と公民館が連携して子ども放課後教室の運営に協力しているというのが1つ目。

同じ並びで、ぜひ、鈴木公民館長も参考になるんじゃないかと思うんですけど、地域学校協働本部を公民館に設置しているという館林市の事例で、公民館長が統括コーディネーターをしている。ですから、11小学校、11公民館の統括コーディネーターを公民館の館長が兼務しているということで驚きを持ったということです。小金井市は、組織的には学校教育部が学校の運営を、生涯学習部が公民館をとということで、組織的に違うものですから、なかなか、学校と公民館というのはつながりが非常に少ないと思います。これに関しても、大熊教育長に学校が公民館を利用するような仕組みが必要じゃないかということで進言はしてあるんですけど、非常に参考になるお話を館林市の井上様からいただいたということです。

詳細は見ていただきたいと思うんですけど、まとめとしては、若者と地域の人との対話が必要であるということと、課題としまして、多様性のある子供に対して、専門的なコーディネーターの継続というのがあるということをお話しされました。

今年になるんですけど、11月に第54回栃木大会があるということで、社会教育委員の方の2名の参加を期待したいと思います。以上です。

柴田議長

御報告ありがとうございました。鈴木委員も、何かされたんですね。感想などありましたらお願いいたします。

鈴木委員

分かりました。鈴木です。

私も福井委員と一緒に山梨行かせていただいて、研修に参加させていただきました。今、福井委員おっしゃっていたとおり、一番印象に残っているのは、ソフトボールの宇津木監督の講話です。テレビで見ると鬼監督のイメージしかないんですけど、すごく厳しい方というイメージしかなくてですね、僕もそう思っていたんですが、実業団に入られた後の、なかなかレギュラーに上がれなかったりとか、会社の業務として、総務に配属されて、実際総務の仕事という

のがグラウンドの整備だったりとか、トイレ掃除だったりとか、ものすごくその下積みの長い時代があって、やっと選手になることができた。今度、選手から監督というオーダーを受けたときに、仕事が変わるときに、本当に自分にできるだろうかと考えて、そのとき初めて自分の父親に相談した。父親からは、もう、何て言うんですか死ぬ気でやるというか、本当に覚悟を持ってやれというようなことを言われて、そこからもう必死に、監督としてやってきたと。今の生活も、いまだに現役時代のトレーニングとかルーティンを毎朝されているというような話を伺って、本当に、何かこう、参考になったというか、自分ももっとしっかりしなきゃいけないなというふうに思いました。

それと、今回行かせていただいて、もう一つ、一番意味があったなと感じたのは、大勢の社会教育委員が一堂に集まることで、人のつながりができることです。どの部分が一番ありがたかったかというところ、情報交換できることが、とてもありがたいと感じました。先ほど、御提案した関前小学校、関前南小学校も、この際に、武蔵野の社会教育委員の方とつながりが生まれたことで、いろいろ具体的な内容、活動されている内容を知ることができました。

ほかにも長野の佐久ですとか、山梨の方ですとか羽村の社会教育委員の方々とつながって、いろいろなお話をさせていただいたんですが、共通している課題は、小金井で、僕も何度も、この席でお話ししているように、活動が同じ方が何役も兼務されているというところ。その方々が高齢化されているというところが一つ。なかなか新しく地域の方が、そういった学校協働活動ですとか、社会教育の分野に参加してくださらないので、そこをどうやって、参加を促していくかということに、物すごく危機感を持っていらっしゃるというか、課題として考えられておられました。

もう一つは、その方々の参加を促すために、どのようなことをすればいいのかということをもっと悩まれている、活動の内容というものも、今までのようなものでいいのかということをもっと考えられていて、日々、いろんな人とのつながりをつくりながら、テーマを変えて、いろんなコンテンツを提供しているというところでした。

それによって、公民館の利用ですとか、そのほか社会教育活動に多くの方が関わってくださるようになるのではないかとというような期待も皆さんお話になっておられました。

以上です。

柴田議長

御報告ありがとうございました。充実した研究大会だった御様子です。館林市の事例は、今後、こちらの社会教育委員の会議でも参考になるのではないかと思いますので、また詳しく後で教えていただければと思います。ありがとうございます。

では、次にまいりたいと思います。4番です。東京都市町村社会教育委員連絡会第5ブロック研修会についてでございます。こちらのほうも福井委員が資料を御提供してくださいました。お願いいたします。

福井副議長

福井です。資料7で説明したいと思います。

第5ブロックの研修会は、11月6日、武蔵野市で開催されました。テーマは、「市民ニーズを生かす・つなげる“学びおくり”のいま～社会教育にできること」という内容でした。小金井市からは、記載の5名の方が参加していただきました。武蔵野市の教育長をはじめ、職員のサポート隊の方も、全員、紫色のTシャツを着用されているということで、社会教育委員の会議に対して、積極的な取組をされているなという印象を開催の1番目に感じました。

研修会としては、社会教育委員の議長であります助友さんから話しいただきました。学びおくりということを中心に話されたんですけど、当然、学び返しとか、次世代につなぐということであるんですけど、「学びおくり」という言葉は、武蔵野市の委員がつくった造語であるということです。ほかの他市のことでやる次世代につなぐというところの冠という言葉が武蔵野市としてオリジナルにつくられたということで、学んだことを次世代にどうやってつないでいこうかという事例発表をされたのと、あと、次世代に送るということで、事例発表としては、武蔵野市民交響楽団ということは、武蔵野市の補助金をもらいながら、音楽演奏をしながら次世代につないでいくということを事例発表で聞きしました。

その後、ワールドカフェということで、7グループに分けて、社会教育委員にできる課題があるんじゃないかということで、各グループで話しをしました。記載の内容の異世代交流というところが一番重要じゃないかということで共有したということと、皆さんの

お話の中で、共有できたのは、地域と人との学び合い、楽しくをモットーに活動していくことが必要であるということです。楽しくということを最終的には、言葉としては、学びおくりのポイントとしては、そういう気持ちで、地域と人がつながるということが必要じゃないかということでまとめたという内容でした。

以上です。

柴田議長 御報告ありがとうございました。森本委員も御参加いただきましたけれども、感想をお願いいたします。

森本委員 はい、私もこちらに参加させていただきました。第5ブロック研修会から参加でしたけれども、資料は、こちらの、福井副議長がまとめてくださっており、今、全ておっしゃっていただいたとおりでございます。御覧いただくとお分かりいただけますけれども、研修会のテーマは、一部では、「市民ニーズを生かす・つなげる、学びおくりのいま」ということで、おくりということはどういうことというような説明もございました。社会教育にできることは、人々との学び、ふれあいの中から課題を共有し解決に向けて次につなげていくことであるということをグループメンバーと話し合いました。

また、第二部のほうで、こちらはワールドカフェの形式でございました。私も本格的にこういう形で、自分が参加したのも初めてでしたけれども、7つのグループに分けて、活発な討議が行われました。テーマは、もちろん社会教育にできることについてでしたが、身近に、市民ニーズを生かしての課題とか解決策をそれぞれのメンバーが、カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、ポストイットに、グループのメンバーが書き上げて、そして、テーブルと、メンバーが次々とグループごとにシャッフルして動くんです。そういう形の中で、対話を続けて参加メンバー全員の知識を共有することができ、知識を集め、グループごとに、最後に発表し合いました。そのようなことで、かなり楽しい中で、短時間に多くのメンバーの考えを取り入れるというか、知ることができ、とても充実して、しかも、その会議そのものも、とても楽しい、楽しまなければという雰囲気の中でできて、このようなまとめ方も面白いなって、一つの参考になりました。

以上です。

柴田議長

御報告ありがとうございます。

私も参加させていただいたんですが、学びおくりという造語をこちらの武蔵野市の社会教育委員さんのほうでつくられて、学んだことをどんどん、人と人とのつながりを構築していった中で、学んだことを他者に還元していこうというような、みんなで手を携えて、楽しく学んでいきましょうという雰囲気が伝わった研修会だったと思います。

ワールドカフェでは私は、地域のおやじの会とかPTAの役員やっている方たちが社会教育委員をしているグループに入らせていただいてまして、大人だけで学ぶのではなくて、子供と一緒に学ぶとか子供を巻き込むということが議論のテーマになりました。事務局から倉澤さんも御参加いただいておりますが、職員さん同士の交流など何か報告することがありましたら、一言お願いします。

倉澤生涯学習係長 では一言だけ。私もグループ討議一緒に出させていただいたんですけども、やはりどこの市町村も社会教育委員をお引き受けいただける方や、地域で活動している方は高齢化しているということが、課題であって、若い人をどう取り込むかというところが、共通の課題だと認識したところです。

柴田議長

はい、ありがとうございます。

では、次5番に移りたいと思います。東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員の研修につきまして、こちらも福井委員に資料を御提供いただいております。御説明をお願いします。

福井副議長

福井です。都市社連協交流大会及び研修会が12月10日、昭島市で開催されました。テーマです。「市民のニーズを活かす・つなげる社会教育～対話からつくろう、これからの「学び」」という内容です。小金井市から3名参加しました。

第一部の交流大会は、例年どおり、5つのブロックごとの発表がありました。我々の都市社連協の多摩地区は、26市3町のグループに分かれておりまして、小金井市は第5ブロックに所属しており

ます。この12月10日の第5ブロックの発表の前に、11月3日の武蔵野市で開催された内容を第5ブロックの社会教育の議長が発表されております。第1ブロックは、福生市の社会教育委員の方が、仲間づくりを通して、社会貢献する持続可能なまちづくりを目指そうという内容をまとめられました。第2ブロックの立川市は、我々は一度訪問したことがあるんですけど、立川市民科というところの市役所の実例を参考に、地域資源を活かした連携協働事業の推進ということを発表されております。第3ブロックは日野市のほうで、紙コップなどのアニメを小学生中心に作品づくりを通して正しく学び合えるまちづくりということで、子供参加の創造ということで、事例を発表されました。第4ブロックは小平市で、大学生が企業と協力しながら、対話につながる学びの事例ということで、武蔵野美術大学が多摩北部医療センターと協働しまして、カラーの小雑誌にて、協働事業事例発表のお話をいただきました。第5ブロックは先ほど、皆さんからお話しいただいた内容で重複しますから、正しく学ぼうという内容であったということです。

その後、研修会ということで、講演会、「孤独を解消する！ 誰もが対話し、つながる社会へ」という内容でした。これは、皆さん御存じのようにロボットを利用しながら、意思伝達を伝えるということで、壇上に60センチぐらいの高さのロボットもあるんですけども、この分身ロボットをこどもホスピスに利用しているという実演です。例えば、子供部屋の病室から、看護師事務所に連携する場合はそのロボットの遠隔装置でつながって声を出せば、そちらのほうのロボットが同じ声を出してくれる。その辺は皆さん理解できると思うんですけど、たまたまもう一つ進んでいるのは、子供が、その遠隔装置のある病室から、右手を上げれば、看護室のロボットも右手を上げてくれる。子供が2回とかうなずいたり横に首を振ったら、そのロボットが首を振ったり手を上げたりするということで、非常に進んでいるような、分身ロボットを勉強したということで、こういうものの意思伝達のアシストするようなロボットもあるよというような参考例を見ながら、学んだというのが講演会の内容でした。

以上です。

柴田議長 御報告ありがとうございます。ほかに。事務局から関課長も御参加されてございますので、一言御感想をいただければと思います。

関生涯学習課長 私も参加させていただきました。当日は公共交通機関の乱れがあって、ちょっと遅参してしまいました。今、福井委員から御紹介ありました研修会の講演会ということで、大変、興味深く聞かさせていただきました。別に自分自身がその場にいらなくても、そこにいるかのような情報共有、体験できるということで、実際小型のロボットを通じて、講師されている方その場でいらっしゃらなくて、遠隔の事務局にいらした中で、お話しいただいたということです。言葉だけじゃなくてそうですね、動作も、その人形に伝わって手を動かしたりとかという形で。

こういった、障害者の施策ということで今後こういったことの広めていくというお話があったかなと思っていまして、やっぱり、だんだん物事とか、いろいろ変わってきているんだなというのは、ざっくりとした感想ですけれども、大変興味深く、社会教育、社会参加の仕方というのは、いろいろあるんだなという、いろんな方法があるんだ、可能性があるんだなということがうかがえた講演会でした。大変意義あるものでした。

以上です。

柴田議長 ありがとうございます。以上で、研修会、研究大会関係の報告事項、以上となります。

では、その次ですが、そのほかということで、資料ございますけれども、事務局のほうから御説明をいたします。

倉澤生涯学習係長 資料9の御説明に入る前に、すみません、お配りした資料に訂正がございます。資料5の令和4年度二十歳を祝う会についての報告のところの下段の表の中の人数の件なんですけれども、間違いがありまして、申し上げます。

市内の日本人の三部、一番上の244となっているところ、こちら245の間違いです。その1個下の外国人1と入っているのは、こちらおりませんで、なしとなります。その他の合計は変わりません。おわびして訂正いたします。

柴田議長 ありがとうございます。

倉澤生涯学習係長 続きまして、引き続き資料9を御覧ください。先日、都市社連協の役員会に出席してまいりまして、そこで配られた資料、まだ案という段階ではございますが、先にお知らせしておきます。

令和5年度都市社連協の総会が、4月15日土曜日午後1時から開催されます。ページめくっていただきまして、次第を御覧ください。来年度は小金井市が副会長市ということで、柴田議長、閉会の御挨拶をお願いしております。

また、2ページを御覧ください。今回の総会で石原委員と福井委員が長年社会教育の振興に寄与されたということで表彰を受けられる御予定です。お忙しいところかと思いますが、ぜひ御予定空けておいていただきますよう、お願いいたします。

なお、まだ日程が先ですので、出欠につきましては、正式な通知が来たタイミングでメールにてお伺いしたいと思っております。

あともう1点、先日2月10日に開催予定しておりました、三者合同会議、雪のため延期とさせていただきました。突然の御連絡になって申し訳ございませんでした。先にお知らせしたとおり、こちらは、3月3日の午後1時より、図書館の地下のほうで、合同会議を開催いたします。本日、出欠の最終確認をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

柴田議長 先日、大雪のために中止となりました3者合同会議ですが、3月3日に日程が変更されたということです。御参加可能な方、御出席予定の方、教えていただければと思います。

福井委員と金澤委員、北澤委員、黒木委員、森本委員、鈴木委員。

倉澤生涯学習係長 はい。ありがとうございます。

柴田議長 御欠席の方はまた後で確認してください。

ただいまの報告事項につきまして、皆様方から、御質問、御意見などありましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

令和5年度の都市社連協の連絡協議会で、第5ブロックから、石原委員と福井委員が表彰されるということでございます。おめでとうございます。

福井委員 ありがとうございます。

柴田議長 ほかに、そのほか、皆様方から何かございませんでしょうか。

鈴木委員 鈴木です。皆様にお配りした、資料の中に、このSDGsの色がついている社会教育委員の手引きという冊子があります。山梨県教育委員会から配られたものなんですけど、僕、1年ちょっと社会教育委員をやらせていただきましたが、学校教育以外の部分は全て社会教育ということで、非常に範囲が広くて、何が社会教育なのかということも分かりませんでしたし、いろんなその施策が行われていることに関する根拠も分からなかったんですが、この冊子を読んでみて、すごくよく分かりました。あらましのようなものなんですけれど、深く書いてあるところは深く書いてありますし、必要なところは。皆さん大変お忙しいと思うんですが、もしよろしければ、この冊子をご一読いただければと思います。

以上です。

柴田議長 ありがとうございます。すごく端的に丁寧に整理された手引きだと思います。ありがとうございます。ほかにありますでしょうか。事務局のほうからいかがでしょうか。

倉澤生涯学習係長 今日会議終わりましたら、小委員会の委員の方、少し残っていただくようお願いします。

柴田議長 では皆様方から特に御意見などないということでしたら、今日はこちらで終了させていただきたいと思います。お疲れさまでございました。